

# 「日本の美」総合プロジェクト懇談会 (第1回)

## 議 事 次 第

日時：平成27年10月13日(火)  
14時30分～15時45分  
場所：官邸2階小ホール

### 1 開 会

### 2 総 理 挨 拶

### 3 座 長 挨 拶

### 4 委 員 紹 介

### 5 議 事

- (1) 「日本の美」総合プロジェクト懇談会運営要領(案)について
- (2) 「日本の美」総合プロジェクトに係る各省関連施策について
- (3) 意見交換

### 6 閉 会

#### 《配布資料》

- 資料1-1 「日本の美」総合プロジェクト懇談会の開催について
- 資料1-2 「日本の美」総合プロジェクト懇談会について
- 資料2 「日本の美」総合プロジェクト懇談会運営要領(案)
- 資料3 「日本の美」総合プロジェクトに係る文化庁関連施策
- 資料4 「日本の美」総合プロジェクトに係る外務省関連施策

## 「日本の美」総合プロジェクト懇談会の開催について

平成 27 年 10 月 7 日  
内閣総理大臣決裁

### 1. 趣旨

我が国の文化芸術の振興及び次世代への保存継承を図るとともに、文化芸術と日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討に資するため、「日本の美」総合プロジェクト懇談会（以下「懇談会」という。）を開催する。

### 2. 構成

- (1) 懇談会は、別紙に掲げる有識者により構成し、内閣総理大臣の下に開催する。
- (2) 内閣総理大臣は、構成員の中から、懇談会の座長を依頼する。
- (3) 懇談会は、必要に応じ、関係者の出席を求め、意見を聴取することができる。

### 3. その他

懇談会の庶務は、外務省及び文化庁の協力を得て、内閣官房において処理する。

(別紙)

「日本の美」総合プロジェクト懇談会構成員名簿

(五十音順、敬称略)

うちなが こ  
内永 ゆか子 NPO法人J-Win 理事長

くし だ かず よし  
串田 和美 俳優・演出家

こう だ まい ん  
幸田 真音 作家

こ ばやし ただし  
小林 忠 美術史学者（江戸時代絵画史）、岡田美術館長

せん げん しつ  
千 玄室 茶道裏千家 前家元

(座長) つ がわ まさ ひこ  
津川 雅彦 俳優・演出家

はやし ま り こ  
林 真理子 作家

もり ぐち く に ひ こ  
森口 邦彦 染色家、友禅作家

## 「日本の美」総合プロジェクト懇談会について

## 1. 趣旨

我が国の文化芸術の振興及び次世代への保存継承を図るとともに、文化芸術と日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討に資するため、「日本の美」総合プロジェクト懇談会（以下「懇談会」という。）を開催する。

## 2. 検討事項

懇談会では、縄文土器、仏像といった日本古来の文化芸術、伝統的な工芸、芸能、茶道、華道、和食、さらには日本映画、アニメーションなど、日本人の美意識や、自然への畏怖、礼節、忍耐といった日本人の価値観が表出した日本の文化芸術について、その振興と次世代への保存継承及び国内外へのアピールのための具体のプロジェクトを提案する。

## 3. 今後のスケジュール

○平成 27 年 10 月 13 日

第 1 回 自由討議

○12 月～平成 28 年 4 月頃

第 2 回～第 3 回 自由討議等

○6 月頃

第 4 回 取りまとめ

（別紙）開催趣旨の補足

日本には、世界に誇る文化芸術がある。  
縄文土器、仏像など日本古来の文化芸術。  
歌舞伎や能をはじめとした伝統芸能や匠の技を受け継ぐ伝統工芸。  
また、和食や茶道、華道など、日本の生活様式に根差した文化。  
近年では、日本の映画やアニメーションが、世界で高く評価されている。

これら日本の文化芸術は、日本人の美意識や、自然への畏怖、礼節、忍耐といった日本人の価値観が表出したものであり、日本のソフトパワーの根幹となるものである。

安倍内閣は、「地球儀を俯瞰する外交」を進める中で、経済、安全保障、人材交流、スポーツ等の面での取組を強化してきた。今後、国際社会における日本の存在感を高めていくためには、より積極的に文化芸術の多様な魅力を発信する外交を展開していくことが必要である。

我が国では、2020年に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。我が国で開催される国際的なイベントは、日本の文化芸術を世界に向けて発信する絶好の機会となる。また、それは日本の文化芸術に対する国内の意識を高め、そのすばらしさを再発見することにもつながる。

今こそ、我が国の文化芸術が発展し、貴重な文化財がしっかりと保存継承され、日本人自身がそのすばらしさを知ることが必要である。そして、文化外交を一層推進し、我が国のすばらしい文化芸術の対外発信を通じて、日本人の美意識・価値観を世界にもっと知ってもらい、世界の人々と共有する努力をすべきである。

このような認識の下、本懇談会においては、我が国の文化芸術の振興及び次世代への保存継承を図るとともに、日本が世界に誇る文化芸術とその底流にある日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際的な相互理解・親善と世界の平和に寄与するための具体のプロジェクトを提案する。

平成 27 年 10 月 13 日

「日本の美」総合プロジェクト懇談会運営要領（案）

「日本の美」総合プロジェクト懇談会（以下「懇談会」という。）の運営については、この運営要領の定めるところによるものとする。

1. 懇談会は非公開とし、会議終了後、議事要旨及び懇談会で配布された資料を速やかに公表する。ただし、座長が特に必要と認めるときは、議事要旨又は配布資料の全部又は一部を公表しないものとすることができる。
2. 懇談会終了後、原則として、懇談会の事務局が記者ブリーフを行い、議事内容を説明するものとする。
3. この運営要領に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、懇談会で決定する。



# 「日本の美」総合プロジェクトに係る文化庁関連施策

平成27年10月13日  
文化庁

# 1. 2020年東京大会に向けた文化プログラムの実施

「文化芸術立国」の実現のために、2020年東京大会の機会を活かすとともに、それ以降も多様な文化芸術活動の発展や、文化財の着実な保存・活用を目指し、組織委員会等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進

## 具体的取組

文化庁の取り組む文化プログラムを「文化カプロジェクト(仮称)」として推進

【「文化カプロジェクト(仮称)」の数値目標】

・20万件のイベント ・5万人のアーティスト ・5000万人の参加 ・訪日外国人旅行者数2000万人に貢献

## キックオフ

- ・2016年10月19～22日 **スポーツ・文化・ワールド・フォーラム**において、国内外へ強力なPR文化プログラム関係の国際シンポジウム、スポーツ大臣会合、官民ワークショップ、文化イベントなどを開催し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高める

## 文化庁が進める取組の三つの枠組み

- ・我が国のリーディングプロジェクト（日本の文化再発見、地域創造人材育成、文化拠点創出など）
- ・国が地方公共団体、民間とタイアップした取組（地域と連携した文化庁事業、広域展開プロジェクト）
- ・民間、地方公共団体主体の取組（地域のお祭り等地域の多様な文化イベント）



2020年東京大会に向けた文化プログラムの実施をチャンスとして  
日本の文化芸術というソフトパワーが国内外に向けて飛躍する





## 2. 文化財の総合的活用

地域の文化財を一体的に活用することにより、地域の魅力・潜在力を引き出し、観光振興施策と連携して地域の活性化と情報発信を図る

### 具体的取組

#### ○「世界文化遺産」を活用した地域活性化

「世界文化遺産」に登録された地域に対して、情報発信・普及・保護活動の取組について支援することで、文化振興とともに地域活性化を推進。



富岡製糸場と絹産業遺産群

#### ○「日本遺産」による地域活性化と国内外への発信

地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の伝統・文化を語るストーリーを「日本遺産」として認定。歴史的魅力に溢れた文化財群を地域主体で総合的に整備・活用することにより、地域活性化を図り、国内外に戦略的に発信。



日本遺産：灯（あか）り舞う半島 能登  
～熱狂のキリコ祭り～

#### ○地域の文化財群の魅力を効果的に発信する取組への重点支援

文化財の魅力をわかりやすく外国人観光客に伝える表現上の留意点等の検討。外国人旅行者のニーズに合わせた正確で分かりやすい解説の作成や情報発信、情報の多言語化を図る体制整備を行うモデル事業への支援。

地域の文化の力を顕在化し、観光活用、国際発信に結び付ける 2

# 3. 文化芸術の国内外への発信(その1)～芸術文化の発信～

## 芸術文化の世界への発信と新たな展開に向けた支援

### ○国際共同制作

我が国と海外の芸術団体とのコラボレーション

### ○国際フェスティバル

(例: H27実績 日伊共同制作オペラ「道化師」公演等)

我が国で開催される海外発信力あるフェスティバル等への支援(例: H27実績 京都国際舞台芸術祭等)

### ○海外国際フェスティバル・展覧会参加出展等

海外で開催されるフェスティバル等への参加・出展への支援(例: H27実績 坂東玉三郎演出 鼓童南米公演等)

### ○現代アート of 海外発信の推進

国際的なアートフェスティバル・フェアへの出展等への支援(例: H27実績 Art Basel 2015 への出展等)



姫路城における  
日伊共同制作オペラの上演

## 日本映画の創造・交流・発信への支援

### ○日本映画製作(併せてバリアフリー映画字幕作成を支援)

例: H26実績 黒澤清監督作品「岸辺の旅」(第68回カンヌ国際映画祭「ある視点部門」監督賞受賞)等

### ○海外映画祭への出品等

例: H26実績 西久保瑞穂監督作品「ジョバンニの島」

(平成26年度アヌシー国際アニメーション映画祭「長編部門」審査員特別賞受賞)等

### ○アジアにおける日本映画特集上映

例: H26実績 ベトナムにおいて「舟を編む」等の上映及びワークショップを実施



ベトナム日本映画特集上映舞台挨拶

## メディア芸術の創造発信への支援

### ○文化庁メディア芸術祭等

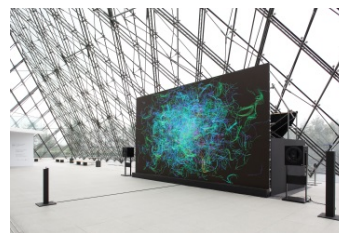
- ・メディア芸術の総合フェスティバルとして優れた作品を顕彰。(平成9年度から実施)
- ・今年度(第19回)は88の国と地域から4,417件の応募。  
(参加国数, 応募件数ともに過去最高)
- ・地方展及び海外のメディア芸術祭関連フェスティバル等で,  
展示・上演を実施。(今年度はチリ, インド, スペイン等で参加予定)

### ○アニメーション映画製作(併せてバリアフリー映画字幕作成を支援)

我が国の優れたアニメーション映画の製作活動に対する支援

例: 原恵一監督作品「百日紅」

(平成27年度アヌシー国際アニメーション映画祭「長編部門」審査員賞受賞)等



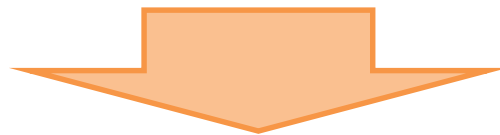
平成26年度[第18回]アート部門優秀賞  
『センシング・ストリームズー不可視, 不可聴』  
作者: 坂本龍一/真鍋大渡  
©SAKAMOTO Ryuichi/ MANABE Daito  
Photo: Keizo Kioku, Courtesy of Creative City Sapporo  
International Art Festival Executive Committee



平成25年度[第17回]マンガ部門大賞  
『ジョジョリオンージョジョの奇妙な冒険  
Part8ー』  
作者: 荒木 飛呂彦  
©LUCKY LAND COMMUNICATIONS/SHUEISHA



アヌシー国際アニメーション映画祭  
「百日紅」上映風景



- ・ 舞台芸術や現代アートなど, 我が国の優れた芸術文化を積極的に海外に発信
- ・ 我が国の存在感を高める日本映画の振興と日本文化に対する理解の促進
- ・ メディア芸術による我が国の文化振興や, コンテンツ産業, 観光, 国際交流の振興

### 3. 文化芸術の国内外への発信（その2）～国際文化交流～

#### 文化交流・協力を通じた発信

##### ○東アジア文化交流の推進プロジェクトの実施

日中韓文化大臣会合の合意に基づき3か国で「東アジア文化都市」を選定、各種文化交流事業を実施

平成26年 日本：横浜市，中国：泉州市，韓国：光州広域市

平成27年 日本：新潟市，中国：青島市，韓国：清洲市

##### ○文化遺産保護国際貢献事業

ネパールの震災及びシリアの紛争により被害を受けた文化遺産への緊急支援等の国際協力を実施

##### ○文化財の海外交流・協力の推進

文化財海外交流展の開催など，我が国の文化財を広く海外に紹介

平成28年イタリア（ローマ）において仏像展を予定

##### ○文化交流使の活動

芸術家，文化人等を「文化交流使」に指名，海外に派遣し，世界の人々の日本文化への理解の深化や，日本と海外の文化人のネットワークの形成・強化につながる活動を推進。これまで，120名を77か国へ派遣。



H26文化交流使・林英哲氏（太鼓奏者）

国際交流・貢献の深化

# 参考：関連予算一覧

(単位:百万円)

施 策	平成27年度 予 算 額	平成28年度 概算要求額
文化芸術立国実現に向けた文化プログラムの推進	12,717	17,743
うち (1)リーディングプロジェクトの推進	0	1,308
(2)国と地方自治体, 民間とタイアップした取組の推進	12,564	14,859
文化財総合活用戦略プランの強化	8,367	11,558
芸術文化の世界への発信と新たな展開	962	962
日本映画の振興	687	751
メディア芸術の振興	757	898
国際文化交流	1,993	2,176

※各事項間には重複がある

# 「日本の美」総合プロジェクトに係る外務省関連施策

平成27年10月13日  
外務省



- 世界における日本の存在感を高めることは、日本の国益に直結。
- 国際社会における「国のイメージ」の重要性が増大する中、日本の多様な魅力の発信や交流を通じて、好意的な対日感情・世論の醸成、対日理解の増進、知日派の育成を進めること（「日本ファン」を増やす取組）は極めて重要。



- この考え方に立ち、外務省は、対外広報及び国際文化交流を積極的に推進。
- 具体的には、本省・在外公館や（独）国際交流基金を活用しつつ、外交上のあらゆる機会を通じて、伝統文化から映画・アニメ・マンガ・ゲーム等に至るまで広範な分野の取組を実施。



安倍総理訪仏の際のトップセールス  
（平成26年5月）

安倍総理のフランス訪問の際に、パリで和食文化を紹介するレセプションを実施。解禁後初となる和牛の料理を提供。

（農水省事業）

## ● 国際漫画賞

世界に広がる漫画文化を通じて国際交流と相互理解の輪を広げることを目的として、外務省主催で海外での漫画普及に貢献する漫画作家を顕彰。平成19年に麻生外務大臣（当時）が創設し、本年度は第9回目。46の国・地域より259作品の応募あり。



## ● 全米桜祭り（米国ワシントンD.C.）

本年3月21日から4月12日までワシントンD.C.で開催。参加者約150万人。外務省は同祭りのフィナーレとなるパレード（ドラえもんバルーン、沖縄太鼓チームなど）の開催等、全面的に協力。パレードは全米にTV放映され、約1億2千万人が視聴。同祭りのウェブサイト約190万人が訪問、Facebookを51カ国約6万7千人がフォロー。



## ● 日本スペイン交流400周年開幕記念音楽会(スペイン)

日西交流を主題とした楽曲の音楽会を開催。我が国皇太子殿下及びスペインのフェリペ皇太子同妃両殿下の御臨席を得た。相手国要人を含む多数の参加を得て、現地での対日理解の促進に貢献。





1. (独) 国際交流基金は、文化芸術交流、日本研究・知的交流、海外における日本語普及を3つの柱に、全世界で国際文化交流事業を総合的に実施している。
2. 文化芸術交流分野においては、日本の多様な文化（伝統から現代まで）を海外に紹介。  
平成26年度の実施件数は600件以上、主催事業来場者・参加者等の人数は130万人以上。

※以下は近年の事業例



「北斎展」の開催  
(平成26年10月～平成27年1月,  
フランス・パリ)

『北斎漫画』の初編出版200周年を記念して、北斎芸術の価値を海外で最初に認めたパリのグラン・パレ・ナショナル・ギャラリーで約700点におよぶ大展覧会を企画・開催。36万人が来場。



放送コンテンツ海外展開支援【新規】

平成27年度は、中東・アフリカ・東欧・中南米等の60か国以上の放送局において、アニメ・映画・ドラマなど約250番組を放送予定。

(写真はNHKドラマ「カーネーション」。  
平成25～26年度にイラン、ベラルーシ、トルクメニスタン等で放映。)



杉本文楽『曾根崎心中』の上演  
(平成25年9月～10月,  
スペイン・マドリード、イタリア・  
ローマ、フランス・パリ)

現代美術作家の杉本博司氏が構成・演出・美術・映像を手がけ、日本を代表する伝統芸能である文楽を新しい形で紹介。ル・モンド紙で絶賛。

- 2013年12月の日ASEAN特別首脳会議において、安倍総理より表明。
- 3000名の“日本語パートナーズ”派遣等の「日本語学習支援事業」及び「双方向の芸術文化交流事業」を、ASEAN諸国を主とするアジアを対象に、2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの期間に集中的に実施。
- 2014年4月、国際交流基金内にアジアセンターを設置。



「わざの美—日本の工芸」展  
(平成26年5月、シンガポール)

国際交流基金と在シンガポール大使館が共催し、茶器、漆の陶器、染色等、人間国宝3名を含む工芸作家14名による作品を展示。オープニング式典に安倍総理が出席。



© 2015TIFF

アジアセンター×東京国際映画祭の連携による映画交流事業

アジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡」共同制作、アジア部門「CROSSCUT ASIA」の新設や、映画関係者の招へいなどを通じ、アジアの映画交流プラットフォームを強化・発展。



第一弾“日本語パートナーズ”の派遣  
(平成26年9月)

東南アジアの中等教育機関等に向けて現地教師のアシスタントを派遣。写真はインドネシア、タイ、フィリピン向けのパートナーズを激励する安倍総理。

## 日本文化の魅力を活かし、世界に貢献する日本へ

### 文化外交の担い手としての国際交流基金

文化交流を通じて日本及び日本国民に対する諸外国の信頼を増進し、また、文化の分野での国際貢献を通じて国際社会における我が国の地位を向上させることによって、我が国の国益、すなわち国民の安全と繁栄を図る。

### 世界の全地域において総合的に国際文化交流事業を実施する専門機関

#### 主要事業

海外における日本語普及

文化芸術交流

日本研究・知的交流

- 組織：国内：本部、京都支部、日本語国際センター（さいたま市）、関西国際センター（大阪府田尻町）  
海外：21カ国に22の海外拠点を設置

国際交流基金の海外拠点

- 人員：役職員数 242名

- 事業規模：233.0億円

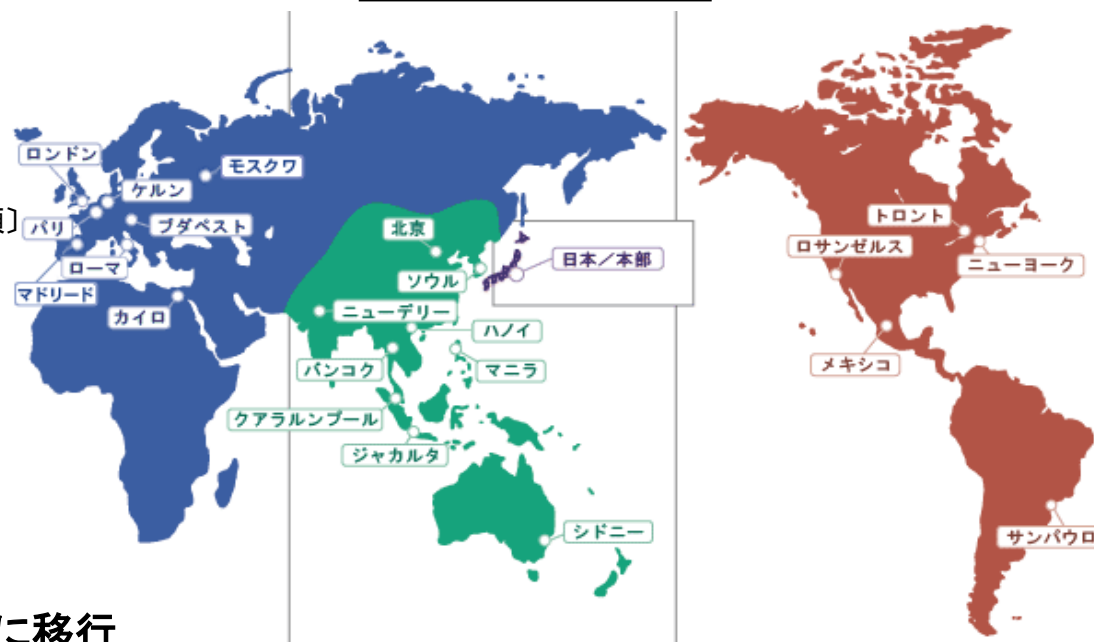
（2015年度当初予算162.7億円

＋アジア文化交流強化事業費35.6億円〔2015年度見合い額〕

＋収入予算外財源2.7億円＋2014年度補正予算措置額の繰越32.0億円）

（当初予算内訳）

・運営費交付金収入	134.5億円
・運用資金（609億円）運用収入	11.6億円
・寄附金収入	2.9億円
・受託収入	0.1億円
・その他収入等	13.5億円



1972年に設立、2003年に独立行政法人に移行